



①51人の委員がグループに分かれて将来都市像などを検討した花巻市総合計画市民会議②「こういう花巻になってほしい」をテーマに中学生が市長と語り合った花巻市中学生円卓会議

新たな総合計画を策定するに当たり、計画策定段階から市民の皆さんが参画するために、「花巻市総合計画市民会議」を設置しました。まちづくりテーマ別のグループに分かれたワークショップ形式で、目指すべき本市の将来都市像や今後のまちづくりの方向性、市民の役割などについて検討。その結果を市長に提言しました。

どうやって計画をつくったか

「花巻市中学生円卓会議」を実施。さらにパブリックコメントを行ったほか、花巻市総合計画審議会や、大迫・石鳥谷・東和の各地域協議会および地域自治推進委員会にも意見を求めました。このようにたくさんの方の皆さんが参画して出来上がった新しい総合計画が、9月議会で議決されました。

どんな計画なのか

新たな計画は、今後10年間のまちづくりの方向性を示すもので、



花巻市まちづくり総合計画を策定しました

なぜ新たな計画をつくるのか
本市では平成18年に現在の総合計画を策定し市政運営を行ってきました。しかし、その後の社会情勢の変化に伴い、人口や産業構造などの主要指標に現況との隔たりが生じてきました。平成22年度に計画の見直し作業に着手しましたが、東日本大震災などの発生により中断することと

総合計画は、市民の皆さんや行政にとってまちづくりの指針となるものです。このたび、「花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン」が9月議会で議決されました。平成26年度から10年間の計画期間となる総合計画の概要を紹介します。

なり、震災後の状況と今後の社会情勢の変化を見据えた再構築が必要になったことから、新たな総合計画を策定することになりました。なお、合併時の新市建設計画に基づいて策定した現総合計画の事業は着手率92・9%と順調に進み、残された図書館や大迫・湯口中学校整備事業も本年度から着手することとなり、事業がほぼ達成される見通しとなりました。

平成26年度(2014年度)から平成35年度(2023年度)までの10年間を計画期間としています。将来都市像に向かって、まちづくり分野ごとに目指す姿を定め、さらにその中の政策ごとに目指す姿を定めています(次ページ図参照)。これまでの計画のように、個別事業を積み上げた計画ではなく、目指す姿を実現するために、その時々々の社会経済情勢を踏まえ、最も有効な手段となる事業を構築し、施策を展開していくための指針とするものです。

これからのまちづくりの視点

新たな計画では、事業を構築し、施策を展開していくために欠かせない重要な視点として、本市の強み、社会情勢、主要指標の見直し、財政の見直し、土地利用の考え方を示しています。

- 本市の強み
*温泉や早池峰山などの豊かな自然
*花巻人の温かい人情
*宮沢賢治や神楽などの優れた先人や文化

- *基盤整備が進んだ良好な農業地域
*高速交通の要衝
■市を取り巻く社会情勢
*人口減少と少子高齢化の進行
*グローバル化の進行
*地方分権の進展と市民参画・協働の浸透
*東日本大震災の教訓
■主要指標の見直し
全国的に人口減少が進行し、本市も平成35年(2023年)には9万人を切るものと推測されます。世帯数は今後減少に転じ、高齢人口の増加に伴い、高齢者のみの世帯が増加する見込みです。
就業者数は、農業などの第1次産業と建設業・製造業などの第2次産業は減少し、サービス業などの第3次産業は横ばいで推移する見込みです。
市内純生産は、第1次産業は横ばいで推移し、第2次産業は微増、第3次産業も横ばいで推移する見込まれています。
※これらの指標は、これを維持するのではなく、この数値をより良いものにしていくための施策を構築する指針です